

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平23年4月5日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105180
法人名	有限会社、ソフィア・インターナショナル
事業所名	グループホーム 山田の里
所在地	鹿児島県鹿児島市山田町44番地3 (電話) 099-264-0850
自己評価作成日	平成23年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kaken-shakyo.jp/kohyo">http://kaken-shakyo.jp/kohyo</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年3月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々やご家族様が、山田の里に入居して良かったと思われるような支援を目指し又、馴染みある方言等を交えて暖かい雰囲気作りを心がけています。ご家族や近所の方々にも、気軽に立ち寄って頂けるグループホーム作りを目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が安心して楽しく笑顔の毎日が過ごせるように、ホームの職員はいきいきと笑顔の会話を心がけている。

居室は馴染みの家具や仏具が置かれ、スタッフの手作りの飾りつけで家庭らしい雰囲気作りをしている。

東日本の災害を教訓に災害対策の見直しを行い、備蓄量も増やしたり、必要な設備等を用意している。また避難訓練もあらゆることを想定して細かく訓練し、利用者の安全確保のため、全員で取り組んでいく姿勢がみられる。

管理者とスタッフとのコミュニケーションが密にできており、支援体制の改善に活かされている。

入居者の希望を取り入れ、利用者と職員と一緒に果実酒を作っている。それを食前酒として週2回提供し、みんなで楽しんでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域との関わりを挙げており、利用者が住みなれた地域と関わり合いを持ちサービスが出来るように取り組んでいる。職員会議でも理念の取り組みについて話し合っている。	理念は朝礼や全体会議などで唱和し、日々利用者が住みなれた地域で関わりができ、笑顔が多く見られるようなケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業者自体が地域の一員として貢献出来る様に、町内会広報に年1回は山田の里便りを入れてもらっている。町内会の文化祭や十五夜等にも、元気な方は参加している。	文化祭や十五夜等の町内会行事に参加したり、山田の里便りを町内会広報で配布してもらったりして日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ボランティア活動の受け入れをしている。受け入れ際には、認知症の状態を説明して理解を深められるように支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の取り組みについて報告している。ご家族様や入居者様からの意見を取り入れてサービス向上に役立っている。	運営推進会議は利用者や家族代表・地域包括支援センター職員等の出席のもと年6回実施している。そのうち2回は防災訓練をかね1回は家族会も兼ねている。利用者の状況等について報告し、意見を交換しながらサービス向上を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>日頃から生活保護受給者の担当者の方とは連絡を取るようしている。地域包括支援センターの方には、運営推進会議に参加してもらっている。介護保険課の研修等には参加している。</p>	<p>市の担当者とは利用者の状況報告やアドバイスを受けながら連携を深め、協力関係を築いている。市主催の研修会に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月、身体拘束委員会に参加し、拘束をしないケアについて理解を深め取り組んでいる。</p>	<p>入居者の安全を考慮しながら、拘束をしないケアについて理解を深めケアに取り組んでいる。玄関の施錠は状況に応じてする場合もあるが、見守りを工夫している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体会議やグループホーム会議において定期的な議題として倫理に関する一つとして学ぶ機会を持っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度については、社会福祉協議会が主催する研修に参加している。研修の報告を職員全員に伝えるように勉強会等も開いている。現在、必要と思われる方はいない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は利用者も交えて家族と共に説明を行っている。利用料を改正するときには家族会で説明をし、一方的な通達にならないように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には毎月、山田の里たよりを発送したり家族会や面会時等に、常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気作りをしている。	入居者や家族の要望により、午前中の家族の来訪時は、昼食などの声かけをして一緒に食べている。気軽に何でも言える雰囲気作りを心がけている。要望で食前酒を提供する日を設けるようになり喜ばれている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティング、勉強会を月1回行い意見を聞くようにしている。管理者は職員の要望や意見等も聞くように心がけている。	全体ミーティングや勉強会を毎月実施している。職員は管理者へ気軽に相談したり、意見を出し合って運営・ケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい環境なくしてケアサービスの向上は、あり得ない訳で職員の資格取得に向けた支援を行うことが出来る労働環境作りに努めている。又、職員のストレスや疲労の要因にも気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には積極的に参加し受講後には、研修報告を職員会議や勉強会で行い、職員同士で知識を共有し各々のスキルアップを目指している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム主催の、研修会や管理者研修会等にも参加して同業者との交流の機会を作りサービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前相談時から、本人や家族より十分に聞き取り、本人や家族が今一番困っている事、援助してもらいたい事を見極めて、本人のこれからの生活に安心と信頼に向けた関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に本人を含めて聞き取りを行いご家族が求めている事も理解し、信頼関係づくりに努めている。本人と同じ目線から話ができる雰囲気を作る。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際のサービスについては、本人、家族からも十分に聞き取りを行っている。サービス内容等も同意を得て進めているが、「その時」必要とするサービスになるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士の関係を築き、入居者本人が得意とする事や趣味等を共有出来るような関係を築いている。入居者の方々に昔の風習や季節の行事等を教えてもらいサービスに反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居の際に、グループホームの特徴を説明して家族と共に入居者本人を支えていく関係である事を伝えている。又、行事等に積極的に参加されたり面会にも頻繁に来られる家族もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の施設の方や、同じ宗教の方々の訪問が気軽に出来たり、またホームのイベントに多くの家族の方々が参加して下さるようにしている。	一人ひとりの生活習慣を大切にしながら、入居者や家族の要望に沿うようにしている。行きつけの美容室に行ったり墓参りなど行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性入居者が半数を超えているので、孤立しないように毎日の食事やお茶の時には、同じテーブルに着き会話が弾むように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られる場合には、ケアプランやアセスメント、支援状況等を手渡し情報交換を行っている。又、馴染みの職員が面会に行く等してダメージを最小限に抑えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の生活歴を含め、暮らしの希望や意向については、入居の際に聞き取りをし家族の要望も踏まえて支援している。	入所時に生活歴を聞き取りし、家族の要望も踏まえるようにしている。また、日々の生活の中で、思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階で、その方の生活歴やこれまでの暮らしを把握することで本人らしい生活が送れるようにサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、心身状態を全員で確認している。夜勤者には夕方に、その日の出来事や心身状態等も申し送るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングやカンファレンスを行っている。新しい課題がでてきたときもその都度、カンファレンスを行い、家族と話し合っ、現状に即した介護計画を作成している。	入居者や家族・職員の意見や要望を話し合っ、これらの情報を反映して現状に即した介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い見直しをしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、排泄、食事量等も記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしている。突発的な出来事等は、申し送りノートを活用している。介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望はその時々において、対応できるようにしている。予定日以外の緊急、外来受診等送迎が必要な支援は、柔軟に対応し、入居者、家族の方が満足できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は少ないながらも、運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになった。又、訪問美容やオムツ助成等も活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医による訪問診療を定期的実施している。他に本人のかかりつけ医がある場合には、付き添う等、本人家族の意向に沿えるようにしている。訪問診療時には、主治医に健康管理表のコピーを渡している。	本人や家族の意向に沿ってかかりつけ医の受診を支援している。担当医による訪問診療を月に2回実施している。また発熱時などの受診を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、入居者の健康管理や身体状況等の変化に応じたサービスが出来るようにしている。協力医療機関との看護職員とも常に連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院する事になって、身体状況やケアの在り方でも情報交換をしている。馴染みの職員が3～5日に1回は面会に行くようにしている。家族とも頻りに情報交換をしながら早期に退院支援が出来るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に家族に終末期、看取りについての説明を行っている。状態が重度化した入居者については主治医の指示判断の元、家族と再度、今後の方針について確認し、本人家族の意向に沿えるように支援している。	重度化や終末期に向けた指針があり、入所時に説明している。医療連携体制があり、家族会などで説明している。本人や家族の要望があれば見取りの支援も可能である。また希望者も把握している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時、事故発生に備えて適切な対応が出来るようにマニュアルを作成し、勉強会等も定期的に行っている。年2回消防署の協力を得て、蘇生法等の講習をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練、災害訓練を実施している。地域代表の方々との協力体制もあり、訓練等にも参加していただいている。</p>	<p>大地震を教訓に定期的に避難訓練・災害訓練を実施している。災害時の備蓄を3日間から5日間にし、またスタッフの役割も見直した。緊急時の連絡網も1階・2階・全体と作成し掲示している。自主訓練も検討中である。地域との協力体制もできている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の会話を通じて、一人一人の人格を尊重した言葉かけを行っている。	利用者の人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけやさりげないケアを心がけ、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活における様々な本人の希望や意向等は自己決定出来るように働きかけている。難聴の方には、筆談し正確に伝わるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には入居者のペースを重視している。月1回は個別ケアを通して買い物や食事に行ったりしている。その方と毎回、話し合っ行って行きたい所等も聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めてもらっている。お化粧品やアクセサリ等は自由にされる。訪問美容の方が来られその人によりパーマをされたり毛染めをされている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使うように工夫している。入居者の方に季節の行事食等もお聞きして、メニューに取り入れている。食後の片付けや、下こしらえが出来る方は積極的に参加されている。	好きな献立を聞いたりして、一人ひとりがおいしく食べれるように配慮している。食後の片付けも積極的に参加し、利用者は食事をおいしく食べて、食事時間を楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方々の食事量は、医師より指示を仰いで個々の摂取量を把握するようにしている。その方に応じて、刻み食にしたりお粥等にして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行っている。自分で出来ない方々には、口腔ケア介助を行っている。その方により歯間ブラシを使ったりしている。夜間はポリデントに浸けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握してズボンの上げ下げ等の介助を行っている。その方によりリハビリパンツやポータブルトイレを使っているが、依存しないように、声かけしトイレ誘導している。	一人ひとりの様子をさりげなく観察しながら、排泄のパターンを把握している。声かけなども周りに配慮し、できるだけトイレ誘導をして排泄の自立支援を行っている。失禁の時なども速やかに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行うと共に、自然な排泄が出来る様に、食事にも繊維物を沢山取れるように工夫している。もともと便秘気味の方々は医師の指示により排泄を促す薬を服用されている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には、入浴日を決めているが本人の希望により毎日入浴されたりする方もいる。入浴を拒否される方には、職員が替わる等して入浴のタイミングを図る等して支援している。	入浴日は決めているが、毎日でもまたできるだけ希望の時間帯に入浴できるように支援し、清潔で気持ちよく毎日を過ごせるように支援している。入浴をいやがる利用者に対しては、工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には1時間程の、午睡の時間を取るようにしている。夜間帯には、ゆっくり休む事が出来るように昼間に散歩やレクリエーションをして生活リズムを作るように心がけている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報ファイルや薬の保管も各自のケースに保管するようにしている。状態が変化した時には、主治医や看護師との連携を取り、本人の状態や状況に応じた支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の喜びや楽しみは個々で違う為、その方の得意分野を発揮出来る様に、モップかけや洗濯物たたみ、食事の後片付け等をお願いしている。お手伝いしていただいたら必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	スーパーが近いので、買い物に行きたいと訴えられる方とは頻繁に行くようにしている。又、家族と相談し墓参りや外食等にも出かけるようにしている。	日常的には近隣の散歩をしながら、地域の方々とふれあいができるようにしたり、近くの店に買い物と一緒に出かけている。水族館や墓参りに家族と一緒にでかけたりして、外出を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の所持については、入居の際にご家族と相談して少額でも所持金を持っていただき買い物時に、自分の財布から支払いが出来るように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は見える場所にあり、いつでも入居者の方が利用出来るように支援している。毎年、年賀状と暑中見舞いを出す事が出来るように支援している。普段より葉書を出す方もいる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間においては入居者の方が混乱が無いようにテーブルや席等も配慮している。室内の温度管理についても一人一人衣服で調整を行っている。花を飾ったりして季節感を感じていただくように支援している。</p>	<p>共用空間は明るく花を飾ったり、壁にはレクリエーション時の写真や職員との合作の作品を貼り、季節感や生活感がある中で、自由に穏やかにくつろいでいる。また居間の柱にはエアークッションが貼られ危険防止にも努めている。畳のある部屋やソファもあり、居心地よく暮らせるよう工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間では、気の合った入居者同士が思い思いに過ごせるようにソファやテーブル、長椅子をセッティングしてあり個々に気に入った場所で過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際には、本人の使い馴れた物を持って来てほしいと伝えられている。家族の写真やお仏壇、位牌等を持ち込んでいる方も居られる。</p>	<p>家族の写真やテレビ・仏壇などがあり、窓はカーテンもかけられ、自分らしい居室で居心地よく過ごされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者の身体状況に合わせ、手すりや玄関スロープ等を設置しているが、高齢化が進み出来る事やわかる事も限られてきている。一人ひとりのわかる力を見極めて目印をつけたりして対応している。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない